

# OTC薬 ガイドブック

第3版

選ぶポイント すすめるヒント


監 修：堀 美智子

臨床監修：福生 吉裕

編 集：医薬情報研究所／  
株式会社エス・アイ・シー

# 1 かぜのような症状

顧客の症状 >>> 考えられる病気・原因 >>> とるべき対応、こんな成分・商品を選ぶ（成分・商品の解説ページ）

<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぜのような症状(熱、咳など)で始まり、高熱、発疹があらわれる</li> </ul>	<p>はしかなどの可能性。 *最近、成人で見られることも多いので注意。</p>	<p style="text-align: center;"><b>すぐに受診することをすすめる</b></p>  <p>はしかの予防接種率が低下している</p> <p>健康成人の場合は、十分な脱水症対策を行えば、受診をすすめなくてもよい場合もある。</p> <p>COPD(慢性閉塞性肺症)の患者の場合、受診をすすめるためのチェックや受診紹介状の作成なども重要である。ハイテッカーなど肺年齢を簡単に確認できるものもある。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●強い頭痛、首のこわばりなどがある</li> </ul>	<p>髄膜炎、脳炎などの可能性。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぜのような症状に嘔吐や下痢を伴う</li> </ul>	<p>ノロウイルスやロタウイルスなどによるウイルス性の胃腸炎の可能性。 *ロタウイルスの場合は、白っぽい便が出る。秋から冬にかけて乳幼児によく見られる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぜをひきやすい</li> <li>●かぜが治りにくい</li> <li>●かぜのような症状を繰り返す</li> <li>●かぜをひくと、症状が悪化しやすい</li> </ul>	<p>かぜ以外の疾患(COPD、喘息など)の可能性。 *免疫抑制薬・副腎皮質ホルモン薬などの免疫抑制作用による影響にも注意。服用中の薬剤の確認を。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぜ薬などの薬をのんでも症状が悪化したように感じる ⇒むくみや動悸(ドキドキする)などの症状がある</li> </ul>	<p>かぜ以外の疾患の可能性。心不全、ウイルス性心筋炎の可能性にも注意。かぜ薬の副作用(間質性肺炎など)の可能性。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●発熱、耳下腺(耳の下)のはれ・痛み ⇒周辺でおたふくかぜが流行している</li> </ul>	<p>おたふくかぜの可能性。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●OTC薬のかぜ薬を4~5日服用したが、よくなるない</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぜのような症状だが、いつもと感じが違う(外見的にも“重症感”が強そうな印象)</li> </ul>		<p style="text-align: center;"><b>早めの受診をすすめる</b></p> <p>ただし血圧や心肺機能など、症状に影響が少ないものを選択</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>●かぜのような症状。基礎疾患(呼吸器疾患、心疾患、糖尿病など)がある。</li> </ul>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>●寝汗がひどく、のどの痛みが続いている。首がはれている。</li> </ul>	<p>リンパ節炎、リンパ腫などの可能性。</p>	

呼吸器科・内科・耳鼻咽喉科  
 受診をすすめる

かぜのような症状

顧客の症状	考えられる病気・原因	とるべき対応、こんな成分・商品を選ぶ（成分・商品の解説ページ）												
<p>●かぜのような症状がある ⇒服用中の薬剤がある</p>	<p>服用中の薬剤の副作用の可能性(免疫抑制薬、副腎皮質ホルモン薬、抗ウイルス薬、抗甲状腺薬、漢方薬、かぜ薬など)</p>	<p>①服用中の薬剤の副作用の可能性について薬剤師と検討(受診や医師への報告をすすめる)。 【副作用の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>免疫抑制薬、副腎皮質ホルモン薬、抗がん薬など：免疫抑制作用により、かぜなどの感染症にかかりやすく、また悪化しやすい。</li> <li>アロプリノール、コルヒチン、抗ウイルス薬、抗甲状腺薬など：無顆粒球症、再生不良性貧血などの血液障害の副作用が知られている。その初期症状として、発熱やのどの痛みなどが見られることがある。</li> <li>メトトレキサート、アロプリノール、コルヒチン、抗甲状腺薬、抗てんかん薬など：肝機能障害の副作用が知られている。初期症状として、発熱、のどの痛み、からだのだるさなどが見られることがある。</li> </ul> <p>* 間質性肺炎の初期症状として、発熱や咳が見られることもある。間質性肺炎の副作用が知られている薬剤は多く、漢方薬やOTC薬のかぜ薬でも起こることがある。かぜの症状が長引いているときは注意。</p> <p>* 解熱鎮痛薬や副腎皮質ホルモンの服用により発熱や炎症症状がマスクされることもあり注意。</p>												
<p>●急激な高熱 ●倦怠感や筋肉痛があり、その後、のどの痛みや咳などのかぜのような症状が見られる ⇒周辺でインフルエンザが流行している</p>	<p>インフルエンザの可能性。</p>	<p>①インフルエンザの可能性もあるので発症後すぐ(2日以内)や、全身の状態が悪いとき、熱がなかなか下がらないときは、受診をすすめる。 ②それ以外のケースでは、現在の症状にあった成分を含むかぜ薬で対応。熱・痛み以外の症状がなければ、解熱鎮痛薬で対応できる場合もある。インフルエンザの可能性があればアセトアミノフェンで対応し、他の解熱鎮痛消炎成分は避ける。 ③漢方製剤の麻黄湯の使用もすすめられるが、体の弱い人は麻黄湯と桂枝湯の併用を検討。 ④周囲への感染予防対策</p> <table border="0"> <tr> <td>成分 アセトアミノフェン(P. 233)</td> <td>商品 解熱鎮痛薬(P. 510~)</td> </tr> <tr> <td>成分 解熱鎮痛消炎成分(P. 228~)</td> <td>漢方 麻黄湯(P. 740)</td> </tr> <tr> <td>商品 かぜ薬(P. 498~)</td> <td>漢方 桂枝湯(P. 696)</td> </tr> </table>	成分 アセトアミノフェン(P. 233)	商品 解熱鎮痛薬(P. 510~)	成分 解熱鎮痛消炎成分(P. 228~)	漢方 麻黄湯(P. 740)	商品 かぜ薬(P. 498~)	漢方 桂枝湯(P. 696)						
成分 アセトアミノフェン(P. 233)	商品 解熱鎮痛薬(P. 510~)													
成分 解熱鎮痛消炎成分(P. 228~)	漢方 麻黄湯(P. 740)													
商品 かぜ薬(P. 498~)	漢方 桂枝湯(P. 696)													
<p>●39~40℃の熱、のどの痛み、頭痛、目の充血、腰痛などが見られる ⇒夏期、小児に見られることが多い</p>	<p>プール熱の可能性。</p>	<p>①アデノウイルスが原因で引き起こされる「咽頭結膜熱」のこと。 ②このウイルスに対して効果がある薬はないため、OTC薬で対応。ただし、高熱が続いている場合は受診をすすめる。</p> <p>商品 解熱鎮痛薬(P. 510~)</p>												
<p>●のどの痛みが強く、食べ物や唾液を飲み込むのもつらい</p>	<p>A群β-溶連菌性咽頭炎など、咽頭炎の可能性。</p>	<p>①消炎作用を有する解熱鎮痛消炎成分(イブプロフェンなど)や消炎酵素成分(リゾチーム塩酸塩など)、消炎成分(トラネキサム酸など)を配合したかぜ薬、漢方薬(桔梗湯、駆風解毒湯など)で一時的に対応し、早めの受診をすすめる。 ②殺菌消毒成分や消炎成分を配合したうがい薬やトローチを併用してもよいが、かえって痛みが増すようなときには、無理に使用しない。 ③化膿性扁桃炎、喉頭蓋炎、喉頭浮腫についても念頭に最悪の場合も考えておく。</p> <table border="0"> <tr> <td>成分 解熱鎮痛消炎成分(P. 228~)</td> <td>成分 殺菌消毒成分(P. 393~)</td> </tr> <tr> <td>成分 消炎成分(P. 297~)</td> <td>商品 かぜ薬(P. 498~)</td> </tr> <tr> <td>成分 消炎酵素成分(P. 294~)</td> <td>商品 含嗽薬(うがい薬)(P. 540~)</td> </tr> <tr> <td>成分 イブプロフェン(P. 236)</td> <td>商品 トローチ・ドロップ(P. 528~)</td> </tr> <tr> <td>成分 トラネキサム酸(P. 301)</td> <td>漢方 桔梗湯(P. 692)</td> </tr> <tr> <td>成分 リゾチーム塩酸塩(P. 296)</td> <td>漢方 駆風解毒湯(P. 694)</td> </tr> </table>	成分 解熱鎮痛消炎成分(P. 228~)	成分 殺菌消毒成分(P. 393~)	成分 消炎成分(P. 297~)	商品 かぜ薬(P. 498~)	成分 消炎酵素成分(P. 294~)	商品 含嗽薬(うがい薬)(P. 540~)	成分 イブプロフェン(P. 236)	商品 トローチ・ドロップ(P. 528~)	成分 トラネキサム酸(P. 301)	漢方 桔梗湯(P. 692)	成分 リゾチーム塩酸塩(P. 296)	漢方 駆風解毒湯(P. 694)
成分 解熱鎮痛消炎成分(P. 228~)	成分 殺菌消毒成分(P. 393~)													
成分 消炎成分(P. 297~)	商品 かぜ薬(P. 498~)													
成分 消炎酵素成分(P. 294~)	商品 含嗽薬(うがい薬)(P. 540~)													
成分 イブプロフェン(P. 236)	商品 トローチ・ドロップ(P. 528~)													
成分 トラネキサム酸(P. 301)	漢方 桔梗湯(P. 692)													
成分 リゾチーム塩酸塩(P. 296)	漢方 駆風解毒湯(P. 694)													

必要に応じてOTC薬の併用や漢方薬の併用を検討

かぜのような症状

## 解熱鎮痛消炎成分

アセトアミノフェン  
〔パラセタモール〕

配合されている薬効群(医療用は注釈参照)  
 かぜ薬◆(1日最大900mg)  
 解熱鎮痛薬◆(1回最大300mg, 1日最大1,000mg)  
 リスク区分: 第2類

## — 選択のポイント —

- 本成分は多くの解熱鎮痛薬、かぜ薬に配合されている。ACE処方: アセトアミノフェン+カフェイン+エテンザミド
- 胃粘膜障害、喘息発作誘発などの副作用は起こりにくいといわれる。血小板凝集抑制作用もないとされ、サリチル酸系製剤やイブプロフェンなど他のNSAIDsを使いにくい場合に候補とする。ただし、抗炎症作用は弱い。
- 空腹時でも服用できる商品や水なしでも服用できる商品もある。顧客の生活習慣や行動パターンなどを考慮して、こういった商品をすすめてもよいだろう。
- 比較的安全性の高い成分といわれ、OTC薬の小児用の解熱鎮痛薬・かぜ薬のほとんどはアセトアミノフェンを配合したものとなっている。小児の解熱を目的とした坐薬として用いられることもある。
- \*過度の服用では低体温を起こす危険があるため、用法・用量を厳守。特に小児に対しては注意が必要。解熱を目的とした内服薬と坐薬の併用にも注意する。
- \*アルコールを日常的に大量摂取している人には、原則として使用しない<sup>注1)</sup>。また、肥満の人でも可能なら使用を避ける。
- \*アセトアミノフェン単独で用いられるほか、アスピリンなどの他の解熱鎮痛成分と一緒に配合されている場合もあるので、他の配合成分にも注意する。

## 📌 薬理作用

非ピリン系/アニリン系/解熱鎮痛薬

アセトアミノフェンは、アセトアニリドまたはフェナセチンをヒトに投与したときの主要代謝物(解熱鎮痛効果の本体)。

- ①解熱作用〔視床下部の体温中枢に作用し、熱放散を増大させる〕
- ②解熱・鎮痛作用〔中枢でのプロスタグランジン合成阻害〕

\*末梢でのプロスタグランジン合成阻害作用はほとんどないとされ、抗炎症効果は期待できない。

## 警告

- ① **医** 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあるので注意すること(変形性関節症の効能を有しない製剤)
- ② **医** 本剤により重篤な肝障害が発現するおそれがあることに注意し、1日総量1,500mgを越す高用量で長期投与する場合には、定期的に肝機能などを確認するなど慎重に投与すること(変形性関節症の効能を有する製剤)
- ③ **医** 本剤とアセトアミノフェンを含む他の薬剤(一般用医薬品を含む)との併用により、アセトアミノフェンの過量投与による重篤な肝障害が発現するおそれがあることから、これら薬剤との併用を避けること



## してはいけないこと

- ①本剤または他の解熱鎮痛薬、かぜ薬で喘息を起こしたことがある人は服用しない<sup>注2)</sup>〔NSAIDsのプロスタグランジン合成阻害作用によってロイコトリエンが過剰となり、気管支収縮から喘息発作を誘発することがある。一般に「アスピリン喘息」といわれるが、他のNSAIDsでも起こることがあるため、過去に服用した薬剤名・商品名を確認し慎重に対応。アセトアミノフェンは喘息を誘発しにくいことが知られているが、念のため注意する〕
- ②長期連用しない〔重篤な肝機能障害や腎障害を起こすおそれがある。またNSAIDsを長期服用している女性で一時的な不妊の報告がある。薬物乱用頭痛(鎮痛薬誘発性頭痛)にも注意する〕
- ③服用時は飲酒しない〔アルコールに胃粘膜障害作用があるほか、アルコール常飲者では肝毒性をもつアセトアミノフェンの代謝物の生成が促進され、肝機能障害を起こすおそれがある〕
- ④本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も服用しない
  - ・他の解熱鎮痛薬・かぜ薬・鎮静薬
- ⑤ **医** 禁忌
  - ・消化性潰瘍のある患者
  - ・重篤な血液障害のある患者
  - ・重篤な肝障害のある患者
  - ・重篤な腎障害のある患者
  - ・重篤な心機能不全のある患者
  - ・アスピリン喘息またはその既往歴のある患者



## 相談すること

- ① 妊婦または妊娠していると思われる人〔妊娠後期の婦人への投与により、胎児に動脈管収縮を起こすことがある。また妊娠後期のラットへの投与により、弱い胎仔の動脈管収縮が報告されている〕
- ② 高齢者
- ③ 次の診断を受けた人
  - ・ 肝臓病〔肝機能を悪化させるおそれがある〕
  - ・ 心臓病〔腎でのプロスタグランジン生合成抑制作用により、浮腫、循環体液体量の増加が起こり、心臓の仕事量が増加するため、心臓病を悪化させるおそれがある。アセトアミノフェンでは、この副作用は起こりにくいのが念のため注意する〕
  - ・ 腎臓病〔アセトアミノフェンの代謝物による尿細管の障害や長期使用による腎障害が問題となったことがある〕
  - ・ 胃・十二指腸潰瘍〔サリチル酸系製剤に比べると影響は少ないといわれるが、これらの疾患の既往がある人や治療中の人には、念のため慎重に対応する〕
- ④ 5～6回服用しても症状がよくなる場合
- ⑤ 医 慎重投与
  - ・ 血液の異常またはその既往のある患者
  - ・ 出血傾向のある患者
  - ・ アルコール多量常飲者
  - ・ 気管支喘息のある患者
  - ・ 絶食・低栄養状態・摂食障害などによるグルタチオン欠乏、脱水症状のある患者〔肝障害があらわれやすい〕
  - ・ 感染症を合併している患者〔本成分の使用により、感染症を不顕性化するおそれがある〕



## 副作用

### 重篤な副作用

- ① ショック(アナフィラキシー)
- ② 皮膚粘膜眼症候群(スティーブンス・ジョンソン症候群)・中毒性表皮壊死融解症・急性汎発性発疹性膿疱症
- ③ 肝機能障害〔肝毒性をもつ中間代謝物の直接的な影響やアレルギー反応によって起こり、重篤な肝障害へ進展することがある。全身のだるさ、尿が濃褐色となる、白目・皮膚が黄色くなるなどの初期症状に注意する〕
- ④ 喘息
- ⑤ 腎障害〔尿量減少にも注意〕
- ⑥ 間質性肺炎
- ⑦ 医 顆粒球減少症

### その他の副作用

- ① 皮膚：発疹・発赤、かゆみ

- ② 消化器：吐き気・嘔吐、食欲不振
  - ③ 精神神経系：めまい
  - ④ その他：過度の体温低下
  - ⑤ 医 血液：チアノーゼ、血小板減少、血小板機能低下(出血時間の延長)など
- \* 本成分の高用量服用で、下痢や腹痛がみられることがある。かぜをひいたときにもこれらの症状が見られることがあるので、注意する。



## 相互作用

- ① 医 本成分の肝毒性が増強
  - ・ アルコール(多量常飲)、カルバマゼピン、フェノバルビタール、フェニトイン、プリミドン、リファンピシン、イソニアジド
- ② 医 両剤の肝毒性が増強
  - ・ イマチニブメシル酸塩
- ③ 医 出血傾向
  - ・ 抗凝血薬(ワルファリン)
- ④ 医 併用薬の作用減弱
  - ・ チアジド系利尿薬
- ⑤ 医 併用薬の血中濃度上昇の可能性
  - ・ リチウム製剤
- ⑥ 医 過度の体温下降
  - ・ 抗生物質、抗菌薬



## 注釈と補足説明

- ① 一般にアセトアミノフェンは安全性が高いといわれるが、大量・長期服用によりグルクロン酸抱合などの通常の代謝経路が飽和し、CYP2E1による肝毒性の強い中間代謝物の産生が増加して重篤な肝機能障害をきたすことがある。また、自殺目的で使用されたとの報告も少なくない。まとめ買いや頻繁な購入には必ず声をかけ、不適切な使用が疑われるときには毅然とした態度で対応。
- ② 万が一、大量服用した場合、服用3～5日後くらいに症状が出ることもあるため、服用後すぐに異常が見られなくても服用がわかった時点であるべく早く受診する。
- ③ 小児の発熱の場合、薬剤の使用だけでなく、水分補給、わきの下や足の付け根部分の冷却なども大切となる。解熱目的の内服薬と坐薬を一緒に使わないように注意する。
- ④ 医 ・頭痛・歯痛・生理痛・変形性膝関節症などの鎮痛：1回300～1,000mg、投与間隔は4～6時間以上(1日最大4,000mg)。空腹時の投与は避けさせることが望ましい。
  - ・ 急性上気道炎の解熱・鎮痛：1回300～500mg、1日2回まで(1日最大1,500mg)。空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

②消化器：吐き気・嘔吐，食欲不振

③精神神経系：めまい

④ 医

- ・血液：貧血，血小板減少など
- ・肝臓：AST(GOT)上昇，ALT(GPT)上昇，Al-P上昇など
- ・腎臓：腎障害
- ・その他：頭痛，小疱性角膜炎，結膜炎，浮腫
- ・消化器：胃痛，下痢など

## 注釈と補足説明

注1) OTC薬で用いられる唯一のピリン系成分(アスピリンは非ピリン系)。ピラゾロン骨格をもつ成分(フェニルブタゾン，ケトフェニルブタゾン，アミノピリンなど)にアレルギーのある場合も使用は避ける。

注2) アスピリン喘息の人は，アスピリン以外のNSAIDs(内服薬，外用薬ともに)の服用・使用も避ける。メントやメントールを含んだ歯磨きペースト，口腔内清浄剤などでも悪化することがあり，慢性副鼻腔炎や鼻茸，嗅覚低下を伴っているケースが多い。

### 解熱鎮痛消炎成分

## イブプロフェン

配合されている薬効群(医療用は注釈参照)

かぜ薬(1回最大150mg，1日最大450mg)

解熱鎮痛薬(1回最大150mg，1日最大450mg)

(1回最大200mg，1日最大400mg)

(1回最大200mg，1日最大600mg)

生理痛専用薬(1回最大150mg，1日最大450mg)

スイッチ化された年：1985年

年齢制限：15歳未満は服用しない

リスク区分：指定2類

1日最大用量が600mgの製品および生理痛専用薬は第1類

### 選択のポイント

- 本成分は，多くのかぜ薬，解熱鎮痛薬に配合されている。
- 抗炎症作用にすぐれている。のどの痛み，関節痛など，炎症(はれ，赤み，熱感など)を伴う痛みがあるときは，本成分配合の製品を第一候補と考える。ただし，OTC薬では15歳未満の小児が服用できるイブプロフェン製剤はない。
- 生理痛の緩和に用いられることも多く，生理痛専用薬(イブプロフェンとブチルスコポラミン臭化物の合剤)も発売されている。

## 薬理作用

非ピリン系／プロピオン酸系／非ステロイド性解熱鎮痛薬(NSAIDs)


- ①鎮痛・抗炎症作用〔末梢でのプロスタグランジン合成を阻害〕
- ②解熱・鎮痛作用〔中枢でのプロスタグランジン合成を阻害〕

## してはいけないこと

- ①本剤または他の解熱鎮痛薬，かぜ薬で喘息を起こしたことがある人は服用しない<sup>注1)</sup>〔プロスタグランジン合成阻害作用によってロイコトリエンが過剰になり，気管支収縮から喘息発作を誘発することがある。これは一般に「アスピリン喘息」と呼ばれるが，他のNSAIDsでも起こることがあるため，過去に服用した薬剤名・成分名を確認し，慎重に対応する〕
- ②15歳未満の小児は服用しない〔OTC薬では15歳未満に適応のある製品はない〕
- ③出産予定日12週以内の妊婦は服用しない〔妊娠後期のラットに投与した実験で，胎児の動脈管収縮が報告されている〕
- ④本剤を服用している間は，次のいずれの医薬品も服用しない
  - ・他の解熱鎮痛薬，かぜ薬，鎮静薬
- ⑤長期連用しない〔数回服用しても症状が改善しない場合は，受診を勧める。また，NSAIDsを長期連用している女性で一時的な不妊がみられたとの報告がある。薬物乱用頭痛(鎮痛薬誘発性頭痛)にも注意〕
- ⑥服用前後は飲酒しない〔アルコールの胃粘膜障害作用により，本成分の副作用である消化管出血の危険性が増大する〕
- ⑦医療機関で次の病気や医薬品の投与を受けている人(1日最大服用量600mgの製品のみ)
  - ・胃・十二指腸潰瘍〔胃粘膜防御能の低下により，症状が悪化するおそれがある〕
  - ・血液の病気〔副作用として血液障害が知られており，症状が悪化するおそれがある〕
  - ・肝臓病〔副作用として肝機能障害が知られており，症状が悪化するおそれがある〕
  - ・腎臓病〔腎血流量の低下などにより，症状が悪化するおそれがある〕
  - ・心臓病〔循環体液量の増加に伴って心臓の仕事量が増え，症状が悪化するおそれがある〕
  - ・高血圧〔Na・水分貯留傾向が起これ，血圧がさらに上昇するおそれがある〕
  - ・ジドブジン(レトロビル)を投与中の人〔血友病患者において，出血傾向が増強したとの報告がある〕
- ⑧ 医 禁忌
  - ・重篤な血液異常のある患者

- ・重篤な高血圧症のある患者
- ・消化性潰瘍のある患者
- ・重篤な肝障害のある患者
- ・重篤な腎障害のある患者
- ・重篤な心機能不全のある患者
- ・ジドブジン投与中の患者
- ・妊娠後期の婦人

## 相談すること

- ①妊娠または妊娠していると思われる人〔出産予定日12週以内の妊婦は禁忌。それ以外の妊婦に対しても慎重に対応する〕
- ②授乳中の人〔本成分が乳汁中に移行することが報告されている〕
- ③高齢者
- ④次の診断を受けた人
  - ・心臓病〔腎でのプロスタグランジン合成阻害作用により、循環体液量が増えて心臓の仕事量が増加するため、症状が悪化するおそれがある〕
  - ・腎臓病〔腎でのプロスタグランジン合成阻害作用により、腎血流量の低下、循環体液量の増加が起こり、症状が悪化するおそれがある〕
  - ・肝臓病〔副作用として肝機能障害が報告されており、症状が悪化するおそれがある〕
  - ・全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病〔これらの疾患の治療を受けている人で、本成分の使用により無菌性髄膜炎<sup>注2)</sup>の症状がみられたとの報告がある。また、これらの自己免疫疾患の患者では、過敏症の発現頻度が高いとする報告もある〕
- ⑤次の病気にかかったことがある人
  - ・胃・十二指腸潰瘍
  - ・潰瘍性大腸炎
  - ・クローン氏病<sup>注3)</sup>
- ⑥次の症状が継続・持続するとき
  - ・下痢、便秘、口の渇き
- ⑦5～6回(1日最大服用量600mgの製品は3～4回)服用しても症状がよくなる場合
- ⑧医師または歯科医師の治療を受けている人または次の医薬品を服用している人(1日最大服用量600mgの製品のみ)(相互作用の項参照)
  - ・クマリン系抗凝固薬(ワルファリン)・アスピリン製剤(抗血小板薬として投与されているとき)・リチウム製剤(炭酸リチウム)・チアジド系利尿薬(ヒドロクロロチアジド)・ループ利尿薬(フロセミド)・タクロリムス水和物・ニューキノロン系抗菌薬・メトトレキサート・コレステラミン
- ⑨本剤服用後、体温が平熱より低くなる、力が出ない(虚脱)、手足が冷たくなる(四肢冷却)などの症状があらわれた場合(1日最大服用量600mgの製品のみ)
- ⑩ 慎重投与


- ・血液の異常またはその既往のある患者
- ・出血傾向のある患者
- ・高血圧症のある患者
- ・気管支喘息のある患者
- ・感染症を合併している患者〔本成分の使用により、感染症を不顕性化するおそれがある〕
- ・NSAIDsの長期投与による消化性潰瘍のある患者で、本剤の長期投与が必要であり、かつミソプロストールによる治療が行われている患者

## 副作用

### 重篤な副作用

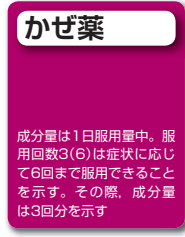
- ①ショック(アナフィラキシー)
- ②皮膚粘膜眼症候群(スティーブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死融解症
- ③肝機能障害
- ④腎障害
- ⑤無菌性髄膜炎
- ⑥喘息
- ⑦血液障害(再生不良性貧血、無顆粒球症など)
- ⑧消化器障害(消化性潰瘍、胃腸出血、潰瘍性大腸炎など)

### その他の副作用

- ①皮膚：発疹・発赤、かゆみ
- ②消化器：吐き気・嘔吐、食欲不振、胃痛、胃部不快感、胸やけ、腹痛、口内炎
- ③精神神経系：めまい、眠気、不眠、気分がふさぐ
- ④その他：目のかすみ、耳鳴り、動悸、むくみ
- ⑤
  - ・過敏症：じんましん、紫斑
  - ・消化器：消化不良、下痢、腹部膨満感、口渇、便秘
  - ・精神神経系：頭痛
  - ・感覚器：霧視等の視覚異常、難聴、味覚異常
  - ・循環器：血圧上昇、血圧低下
  - ・その他：倦怠感、発熱、鼻出血

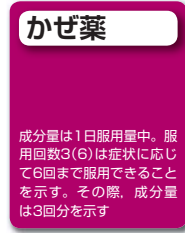
## 相互作用

- ①血友病患者で出血傾向増強
  - ・ジドブジン(禁忌)
- ②出血傾向増強
  - ・抗凝固薬(ワルファリン)
- ③併用薬の血小板凝集抑制作用を減弱
  - ・アスピリン(抗血小板薬として投与している場合)
- ④併用薬の血中濃度上昇
  - ・リチウム製剤(炭酸リチウム)
- ⑤両剤の副作用(腎障害)増強
  - ・タクロリムス水和物
- ⑥併用薬の利尿作用が減弱



区分	商品名	会社	成人1回量 服用回数	解熱鎮痛										抗ヒスタミン					鎮咳		中枢神経興奮			生薬成分					漢方		その他成分および備考	服用禁止年齢						
				アセトアミノフェン	メチロキサロリン酸	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム			メチロキサロリン酸ナトリウム	メチロキサロリン酸ナトリウム				
①	アスゲンかぜ総合錠	日邦薬品	3錠	3	900																																ニンジン乾燥エキス225mg/ *末として/*2乾燥エキスとして	5歳未満
②	アルペンこどもかぜシロップ	ライオン	10mL*	6	300																															*3-7歳未満 柴胡桂枝湯エキス300mg/ ビー子味	3カ月未満	
③	アルペンSこどもかぜシロップ	ライオン	10mL*	6	300																															*3-7歳未満 柴胡桂枝湯エキス300mg/ いちご味	3カ月未満	
④	アルペンこどもかぜ薬K細粒	ライオン	1包*	3	450																															*7-11歳未満 アスコルビン酸225mg/ いちご味	7歳未満	
⑤	アルペンこどもかぜ薬K細粒	ライオン	1包*	3	300																															*3-7歳未満 アスコルビン酸150mg/ いちご味	3歳未満	
⑥	宇津こどもかぜ薬A	宇津救命丸	1包*	3	450																															*7-11歳未満 d2-メチルエフェドリンサッカ リン塩30mg	1歳未満	
⑦	宇津こどもかぜ薬C	宇津救命丸	1包*	3	450																															*7-11歳未満 d2-メチルエフェドリンサッカ リン塩30mg/アスコルビン酸 カルシウム37.5mg	1歳未満	
⑧	宇津こどもかぜシロップA	宇津救命丸	10mL*	6	300																															*3-7歳未満/いちご味	3カ月未満	
⑨	宇津こどもかぜシロップL	宇津救命丸	6mL*	6	300																															*3-7歳未満/いちご味	3カ月未満	
⑩	宇津ジュニアかぜ薬A	宇津救命丸	4錠*	3	600																															*11-15歳未満 *粗エキスとして/*2エキ スとして	5歳未満	
2	SKコール内服液	日邦薬品	1本 (30mL)	3																																	柴胡桂枝湯濃液45mL(サイ コ、ハンゲ、ジャクヤク、オウコ ン、ニンジン、タイソウ)	15歳未満
①	エスタックイブ	エスエス	3錠	3																																	チアミン 硝化物24mg/ア スコルビン酸300mg	15歳未満
②	エスタックイブ顆粒	エスエス	1包	3																																	チアミン 硝化物24mg/ア スコルビン酸300mg	15歳未満
③	エスタックイブファイン	エスエス	3錠	3																																	ヨウ化イソプロパミド6mg/ アスコルビン酸300mg/チ アミン硝化物24mg	15歳未満
④	エスタックイブファイン顆粒	エスエス	1包	3																																	ヨウ化イソプロパミド6mg/ アスコルビン酸300mg/チ アミン硝化物24mg	15歳未満
⑤	エスタック総合感冒	エスエス	3錠	3	900																																ヘスペリジン45mg/*末と して/*2エキスとして	5歳未満





剤形	商品名	会社	成人1回量 服用回数	解熱鎮痛											抗ヒスタミン					鎮咳			鎮咳 アセチルコリン	去痰 アンブロキシール塩酸塩 メチルエフェドリン塩酸塩	消炎 リソチム塩酸塩	抗炎症 トリスホキシム酸	中枢神経興奮 カフェイン エタニド	生薬成分							漢方 葛根湯	その他成分および備考	服用禁止年齢		
				2	②	②	②	2	2	2	2	2	②	2	2	③	②	2	2	3	3	②						2・3	2・3	3	3	3	3	3				3	2
				mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg						mg	mg	mg	mg	mg	mg	mg				mg	mg
2	オオクサ小青龍湯エキス錠	日邦薬品	5錠	3																								2g	2g				2g			2g	小青龍湯軟エキス2783mg、シャクヤク、サイシ、ゴミシ、バシク	5歳未満	
②	改源 ⑤	カイゲン	1包	3	900																							30					200 mg*			200 mg*	*未として	1歳未満	
②	改源かぜカプセル	カイゲン	2カプセル	3	900																							40					200 mg*			150 mg*	*未として	7歳未満	
②	カイゲン顆粒	カイゲン	1包	3	900																							30	30				750 mg*			500 mg*	*未として	3歳未満	
②	カイゲン感冒液小児用 ⑤	カイゲン	9mL*	6	300																								20				200 mg*				*3~7歳未満 人參流エキス0.25mL(ニンジン として250mg)/*エキスとして	3か月未満	
②	カイゲン感冒カプセルDX	カイゲン	2カプセル	3	900																							60					60	420			チアミンジスルフィド10mg/ リボフラビン6mg/グリシン 240mg	7歳未満	
②	カイゲン感冒カプセル「プラス」	カイゲン	2カプセル	3	770																							60					96 mg*	54.5 mg*	3 mg		ビスベンチアミン10mg/リ ボフラビン6mg/乾燥水酸化 アルミニウムゲル270mg/* エキス未として/*2乾燥工 キスとして	7歳未満	
②	カイゲン感冒カプセル	カイゲン	1包	3	774																							45	200				112.5			200 mg*	*エキス未として/*2エキス 散-Nとして/*3乾燥工キ スとして	1歳未満	
②	カイゲン感冒錠	カイゲン	3錠	3																								60					75				プロムヘキシリン塩酸塩12mg	15歳未満	
②	改源錠	カイゲン	3錠	3	900																							45					75			225 mg*	*未として	5歳未満	
②	学童ストナ ⑤	佐藤製薬	4錠*	3	600																							40									*11~15歳未満 トリプロリジン塩酸塩水合物 2.6mg/セネガ乾燥工キス 33mg	7歳未満	
2	カコナール2はちみつジンジャーフレーバー ⑤	第一三共HC	1本 (45mL)	2																													4g	2g		3g	*濃縮液81mL(カコナール8g/ タイソウ4g/ジャクヤク3g)	15歳未満	
2	カコナール ⑤	第一三共HC	1本 (30mL)	3																													4g	2g		3g	*葛根湯抽出液90mL(水製抽出液/ カコナール、タイソウ、ジャクヤク)	15歳未満	
2	カコナール2 ⑤	第一三共HC	1本 (45mL)	2																													4g	2g		3g	*葛根湯濃縮液81mL(水製抽出液/ カコナール、タイソウ、ジャクヤク)	15歳未満	
2	カコナール2V顆粒	第一三共HC	1包	2																													4g	2g		3g	*葛根湯工キス(乾燥)4.4g(水製抽出工キス)/ビスベンチ アミン25mg/リボフラビン 酢酸エステル12mg/トリス コルピシナトリウム500mg	15歳未満	
2	カコナール2 葛根湯顆粒 [満量処方]	第一三共HC	1包	2																													4g	2g		3g	*葛根湯工キス(乾燥)15.56g (水製抽出工キス)(カコナール、 タイソウ、ジャクヤク)	2歳未満	